

聖金曜日 主の受難

ヨハネ 18・1-19・42

2013. 3. 29

オリビエ・シェガレ

(パリミッション会司祭)

ヨハネ福音書の受難物語には、私たちが深く考えさせられる箇所は多い。特にイエスとピラトの真理についての短いやり取りはそうだと思う。「わたしは真理について明かしするために生まれ、そのためにこの世にきた。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く」。ピラトは言った「真理とは何か」。(18・37-38)

ヨハネは他の福音書より、真理ということばの意味を重んじています。「真理を行う人は光の方にくる」とか「真理はあなたたちを自由にする」とか。しかしいったい真理とは何か。人それぞれの考え方によって真理の意味が違ってくるのではないだろうか。ピラトの問いかけは私たち一人一人が持っている問いかけでしょう。真理とは何か。それは哲学における真理の意味だけではない。哲学よりもより身近な意味の真理があるはずです。生きていく目印としての真理、自分を生かす真理、自分の幸福を与えてくれるような真理。今日朗読された受難物語の中に様々な人物が出ているが、それぞれの答えが違っています。

まずユダ。イエスを敵に引き渡したユダの裏切りの動機についていろいろな説があるが、お金のためという説は信じがたい。ユダはけっしてそういう人ではなく、むしろ使徒の中でも、最初からもっとも熱心で正直な人のように映っていました。だが、イエスに魅せられた彼の期待は徐々に裏切られたようです。彼はローマによって占領され、様々な差別や不正を被る自分の国の解放を望み、権力をふるい、敵を滅ぼすようなメッシャを求めていた。彼は正義こそ真理であり、実現に向けてテロを含めてどんな手段でもかまわないと思っていた。しかし暴力を拒否するイエスに失望して、イエスを見捨てて、敵に引き渡す。

次にくるのは大司祭のアンナスとカイファ。彼らが持っている真理は彼らが属している宗教団体の教えそのものです。宗教の権威によって定められた真理の枠に合わない人は異端と見なし、殺してもいいと思っている人たちです。教会は異端審問、魔女狩りの時代では、こうした非常に排他的で不寛容な態度を取っていたが、今でも教会などに原理主義という現象が残り、自分たちが信じているもの以外の真理を認めず、人を差別し続ける人がいる。

次に出ているのは律法学者です。彼らの持っている真理の唯一の物差しは律

法。決まり、しきたり、ルールは絶対的なもので、従わない人は死んでもいいという狭い発想を持つ人々。「わたしたちには律法がある。律法によればこの男は死罪に当たる」と。人間の命より掟やルールを優先すべきだと考えている人々。この考え方は今でもたびたび見られる。生活における決まりだけではなく、経済や科学の法則に固執し、思いやりとゆるしの精神を無視して、合理性や効率を優先する様々な思想。

次ですがピラト。ピラトはローマ帝国の真理、軍隊の真理、国家権力の真理しか信じていない人だ。この真理のもとに、小さな人々をいじめ、残酷な支配を行い、必要があれば武器を持って虐殺を行う。受難物語の中にピラトは暴力を拒否して、武器を持たない無力のイエスの前に心の動揺を見せ、一種の疑問が一瞬彼の頭をかすめた。真理とは何か。だがすぐこの疑問を退けイエスを死刑するために引き渡しています。

人間はだれでも自分の真理を持って生きている。それは社会常識であり、経験によって得られた教訓であり、本から学んだものである。またこのような真理は自分の生まれた民族共同体とは深い関係があるだろう。こうした真理を持つこと自体は決して悪いことではない。だがこの世のどの真理でも限りがあり、絶対的なものだと思った時の自分の真理は、支配と排除の道具となり、賛同しない人を殺してもいいということになる。

ところがイエスの真理は何だったのでしょうか。さっきの朗読で「私は真理について証しするように生まれた」と書いてあった。イエスの真理は人間に作られた真理ではなく、「証された」真理。イエスはその真理の証し人である。つまりイエスの真理は自分の経験や知識だけに基づいて構築されたものではなく、神の掲示によって自分に示されたもの。完結したドグマではなく、出来事を通じて徐々に明らかにされてきた真理。イエスと同様に私たちに真理は人生を通して徐々に示されるはず。「聖霊が、あなた方を導いて、真理をことごとく悟らせる」。こうして悟ってきた真理は開かれた真理で、決して他の人に押し付けるものではなく、対話を通して分かち合っていくものです。聖書の言い方をすると、言葉と生き方を通して証していくもの。この真理は全ての人の救いを望む神の本願です。この本願は宗教の真理、法の真理、政治や科学の真理を超えている永遠の真理。別の言い方をすれば福音の真理です。

キリストの弟子になった私たちは、受難のイエスに倣って、この真理を持って生き、勇気と熱意を持ってこの福音的な真理を伝えることができますように。